

## 大学院修了にあたって（編集後記にかえて）

橋本先生にお会いし、教育学研究室のゼミ風景を初めてかいま見、「この先自分が変わっていくだろう……」と感じてから早 3 年が経った。もちろん外見も十分変わった（前後の体重差は、なんと 8Kg におよぶ）。中でも一番変化したことは、自身で学習する楽しさと苦しさをほんの少しであるが知ったことである。そこに行き着くにはだいぶ時間がかかったが、自分のやりたいことを突き詰め、疑問であったことを解明していく過程は今までにない経験であった。このような経験は、たぶん橋本先生、田代さんをはじめ教育学研究室のみなさんの存在があってこそのことである。自身が仕事をしながらという状況のため、ゼミの日程や時間を変更してくださったり、資料を送ってくださったり、何枚にもおよぶ FAX ……すべてが心暖かく、励みになり、貴重な時間を共有できたことを心から感謝している。

何よりも感動したのは、「体に良いおいしいもの（酒を含む）」をたくさん食べさせてもらったことである。自分の食生活を反省しつつ、ご馳走になり、舌鼓をうった（体重 8Kg 増はその結果かな？）。夜の時間は会話もス・テ・キであった。研究のことや面白い事件のこと、食べ物のこと、家族のこと等お腹が痛いほど笑うことができ、たぶん体中の酸素飽和度 100 % であったに違いないと思う時間であった。

この先、どんなことに興味をもち、また変化（成長？）していけるか、楽しみができました。健康的に研究を続けていけることが目標です。まだ、やっと駆け出しのところですよ。これからも、この御縁を期におつきあいしてくだされば、幸いです。

（河内美江）

いつか大学院に行こうと思っていましたので、色々とお誘いをいただいても定職につかず、子供が小学生になるのを待っていました。子供を塾につれて行って待っている間いつも英語の勉強をしていました。そのかいあって栄養大学の大学院に合格しました。2 人の子供の中学受験とわたしの大学院生活、都立医療短大の実習指導と微妙にバランスをとって暮らしていました。ところが 5 年目の一番大変なときに常勤で働くことになってしまいました。年齢が 50 才となっていましたのでお話を頂いた時に「決断のときだ」と感じました。仕事とドクター論文と子供の受験ととりあえず日々前に進むだけの生活でこの一年間のことは細かいことは全く憶えていません。

ドクターコースの最後の半年は、仕事に行くのに制服のように同じ洋服を着ていたり、子供の受験校の保護者面接に着るものを、前日の夜 8 時に東武デパートで買ってと綱渡りの生活をしていました。

大学院生活の最初の 4 年間はじっくりと考える時間があったことを今から思うとぜいたくな時だったのだと感じます。このぜいたくな時間の成果が徐々に花開くように願っています。これから先、例えば 60 才になった時どんな暮らしをしているのか自分で自分が楽しみです。（ハープ研究家に変身しているかもしれませんよ皆さん！）教育学研究室の皆様どうもありがとうございました。

（藤野彰子）

一般の日本人にはあまり知られていないマラウイ共和国について、わが教育学研究室のメンバーは、全員が詳しく知っている。毎週一回教育学研究室で行っている院ゼミでは、ジェンダーや社会調査をテーマにした抄読や翻訳作業に加え、院生一人一人の研究テーマについて、その内容・研究計画などを院生全員が、まるで自分自身の研究であるかのように、真剣に考え意見を提供し合っているからである。その結果、アフリカに精通した助産婦や現代のお産事情を良く知る保健婦、タッチに詳しい管理栄養士などが生まれ、オールマイティーな橋本教授や田代助手がその時々到的確な助言を提供する教育学研究室のゼミ形式が出来上がっているのである。このような素敵な仲間に出会え、たくさんの暖かい励ましを受けながら有意義な時間をおくり、私自身は今年3月に5年間の院生生活を修了することができた。

エイジレスと言われていた私も、髪には白いものが目立ち、睡眠時間が少し足りなくなればすぐ目の下に“クマ”を飼うようになってしまった。これからは、今までのようにはいかない。困ったときに手を差し伸べてくれた仲間とは少し離れたところで、年齢をきちんと自覚しつつ、まだまだ果てしなく続く課題に、これからもまた少しずつ取り組んでいかなくては…。本当にありがとうございました。

(松井幾子)